

第 16 回日本薬局学会学術総会

ポスター発表

電子おくすり手帳メッセージ機能の服薬フォローアップに対する有用性の検討

総合メディカル（株） そうごう薬局 豊見城店

富永 知志

【目的】総合メディカル（株）沖縄地区のそうごう薬局では、服薬期間中のフォローアップ（以下 FU）を基本的に電話で行っている。ただし、日本薬剤師会発行の服薬フォローアップの手引きでは、「FUの方法は電話以外に SNS などの活用を検討しても良い」とされており、患者の希望があれば、電子おくすり手帳のメッセージ機能も FU に活用できるのではないかと考え、これまで試行してきた。今回、電話と比較してメッセージ機能が FU の方法として有用かどうかを評価する目的で、過去の FU 記録を調査し、手段別の FU 実施率と FU への返答割合について検討した。

【方法】2021 年 3 月から 5 月の間に行われた FU の記録を調査した。FU 対象は新規薬剤の追加もしくは薬剤の増量、減量、中止が行われた患者である。解析は、PHC 株式会社のヘルスケア手帳[®]のメッセージ機能を用いた FU を希望した患者と、それ以外の電話による FU を実施した患者の 2 群に分けて集計し、それぞれの年齢ごとの FU 実施率を比較するとともに応答率（FU への返答があった件数÷FU を行った全件数）を算出し、フィッシャーの正確確率検定により比較した。

【結果】対象期間中に FU は 230 件実施されており、そのうちメッセージ機能による FU 実施割合は 25.7%（59 件）であった。年齢別の FU 実施割合は、20 歳未満では 45.5%、20-40 歳では 33.3%、40-60 歳では 27.7%、60-80 歳では 5.7%、80 歳以上では 9.1%であった。応答率はメッセージ機能による FU が 75.6%、電話による FU が 87.1%であり、両者に有意な差は認められなかった。

【考察】今回の調査から、メッセージ機能活用は若年層を中心にニーズが高いことが明らかとなり、FU の有用な手段のひとつになることが示唆された。今後は、手段別に患者の満足度や薬剤師が得られる情報量など詳細についても検討する予定である。FU の手段が増えることで、薬学的に確認すべき内容に応じた FU の手段を薬剤師が選択・提案もできるようになり、より患者の満足度向上につながるものと考えている。